

よりん彩

第55号
2017. 8



自分らしく過ごす幸せなひとときより
男のクラブ「コーヒーショップ」(関連ページ2ページ)

特集:自分らしく過ごす幸せなひととき セカンドライフステージ 居場所づくり 生き生きと過ごすために

P2・P3

男のクラブ「コーヒーショップ」 (倉吉市)

いきいき直売よどや運営会 (湯梨浜町)

赤崎男の料理教室 (琴浦町)

たなかはなこ

■シリーズ 時代を切り拓いた鳥取の女性たち(田中花子さん) P4

■あなたの町の男女共同参画 (米子市) P4

■きらり輝く

中山 智絵さん (北栄町) P5

佐伯 綾子さん (倉吉市) P5

■男女共同参画推進員制度の紹介 P6

■よりん彩 相談室より・“情報ライブラリー”おすすめブック P7

■知る得コーナー P8

目 次



鳥取県男女共同参画センターの愛称「よりん彩」とは「ちょっと寄っていってくださいな」という意味の言葉で、気軽に利用していただきたい、老若男女いろいろな色（彩）を寄せ合って男女共同参画社会づくりの輪が広がっていってほしいという願いが込められています。

自分らしく過ごす幸せなひととき セカンドライフステージ

居場所づくり 生き生きと過ごすために

仕事、仕事で一生懸命働いてきた人は、退職後、家や地域で居場所がないという話をよく耳にします。また、仕事を辞めたとたんに、日々の生活に張り合いをなくしたり、何をしたら良いのか分からなくなったりする人も多いようです。そのようなときに地域のなかに自分の居場所があるということは、楽しみや興味が広がり充実感や新しい仲間を得るきっかけになるかもしれません。今、あなたはどんな時間をお過ごしですか。仲間と一緒に？それともひとり？ 何も趣味がない、何をしていいかわからない、友だちがいない…と思っているあなた。自分らしい時間の使い方ができたら幸せだと思います。

一人ひとりが自分らしい時間の使い方をしながら地域で居場所をつくり、生き生きと活動されている、そんな団体をご紹介します。

男のクラブ「コーヒーショップ」

活動場所 倉吉市小鴨公民館

きたむらたかお
代表の北村隆雄さんにお話をうかがいました。

■男のクラブ設立のきっかけは？

平成 23 年の春、公民館主催の男性限定の男磨きをやってみようという「男前教室」がきっかけです。その時のメンバー 8 人で翌年に「自分たちだけで何かできることはないか」という話ができるようになり、公民館のカウンター付きの談話室を利用して、平成 25 年に「男のクラブ」と改名しコーヒーショップを月 1 回第 3 火曜日に開いています。その日は、お客様もクラブのメンバーも楽しい話題や季節のものを持って発表や交流をしています。

■意識の変化はありましたか？

おそろいの T シャツと緑の前掛けをして、連帯意識を持って取り組めるようになりました。初めての方も大歓迎なのでですが、最近では公民館の教室の生徒さんの常連も増えてきて来られた方の喜ばれる顔を見ると嬉しくなりますし、来月も頑張ろうという元気の源になります。男のクラブも利用者さんも居場所があるからこそ輝くことができると思います。地域と関わる中で、人と人がつながり「地域のために」という新たな意欲も出てきています。



■このクラブを通して

「コーヒーだけでなく抹茶もあったがいい」という女性利用者さんの声がもとで同じ時間帯にとなりの場所に「おちゃめクラブ」という抹茶席もできました。女性スタッフがお茶をたて、おもてなしをしています。コーヒーと抹茶の両方を飲まれる方も多いです。コーヒーも抹茶もお菓子が付いて 100 円です。また、このクラブからは、自主企画で歌の教室ができたり、公民館や地域の団体の催しものを知らせてもらうコーナーができるようになりました。男性も女性も一緒にになって取り組んでいます。シニア世代でこの地域を活性化できたらよいと思います。



お客様の声

- 知らない人と会えて楽しい。
- 今日初めて参加したが、知った人がいて嬉しかった。
- 知り合いの輪が広がる・出かけるところがあるとおしゃれもでき、元気になるように思う。
- 何十年ぶりの人に会えた。また、来てみたいと思う。
- 常連で来ていない人がいると元気かしらと不安になる。

いきいき直売よどや運営会

活動場所 松崎駅前旧ノグチ駅前店

はやみとしひと
事務局長の速水敏人さんにお話をうかがいました。

■よどや設立のきっかけは？

駅前にあったスーパーがなくなり、地域で暮らす人たちが買い物に困るし、交流の機会が減るということで、住民の交流施設として立ち上げました。約10名で立ち上げて、木曜日と金曜日の週2日、10時から12時まで開けています。木曜日は地元の商店から良心価格の惣菜や野菜が届けられ、販売や交流カフェを開いています。また、金曜日は、交流カフェのみで、コーヒーが一杯80円で味わえます。

■運営してきて変わってきたことは？

よどや開設当初は、井戸端会議をしていたレディ ババ（開設1年後によどやで自然発生的に生まれた女性のグループ）の地域への意識が大きく変わってきたことでしょうか。当初は集まって楽しくワイワイと時間を過ごしていましたが、最近では地域にある介護宿泊施設を訪問したり、フリーマーケットに参画するなど、地域を元気に、周りを楽しくという意識が生まれてきたように思います。

また、「交流カフェ」は、買い物に来られる方々に好評で、木曜日を楽しみにして来られることを大変嬉しく思います。

■これからの課題

地域のコミュニティが変わらないと地域が変わっていかない。地域を元気にする人やものを上手に使って、地域を活性化していくことが大切。一つ一つのコミュニティが繋がりグループになり、更にグループの枠を越えてコミュニティ連絡協議会のようなものができたらよいと思います。そのヒントは、「支え合い・防災」の取り組みにあるように思います。



利用者さんの声

- 家から近くなので、重いものを買うのに良い。
- 普段会わない人にも会える。
- 汽車に乗って倉吉まで出なくて済む。
- ここに来ると元気がもらえる。
- 家で笑うことがないのでここに来ると楽しい。
- ストレス解消になる。 ●毎週が楽しみ。
- 隣に住んでいても会えないがここで会える。

赤崎男の料理教室

活動場所 赤崎地区公民館

にしむらきみまさ
会長の西村仁優さんにお話をうかがいました。

■男の料理教室設立のきっかけは？

今から11年前に公民館でたまたま出会った男3人が、当時の主事さんの助言をもらい料理教室を始めました。赤崎と言えば漁港もあるし、新鮮な魚を使った料理をメインにしようと思いました。また、男の人は公民館を利用する回数が少ない、人と人がつながれば楽しくなるのではと考えました。春夏秋冬の四季の旬の魚を使い年4回の料理教室で、8人くらいで始めた教室が30人くらいになり、年々増え現在72名の会員です。

■料理を通して意識の変化は？

「男子厨房に入らず」という言葉がありますが、料理教室に参加することで料理に対して抵抗が無くなっています。若い人が仕事で帰りが遅かったり、つれあいが忙しくしていたら、自分たちが率先して料理をするようになってきています。料理教室で教わった料理を家族に振る舞う人も多く出てきました。また、その家族からも「今度は、こんな料理をして」とメニューのリクエストがあったりします。そして、父が台所に立って料理をすれば、息子も孫も料理をするようになります。家族で楽しい時間を共有できます。人によってはマイ包丁を持つ人もいます。

■これからの課題

いろいろな人に参加してもらい仲間が増えていくことは大変良いことだが、40人入ればいっぱい公民館の調理室の広さに限界があります。場所の確保が大変難しい。料理教室の前には、役員で試作を行い料理教室に向かうが、役員も年をとってきてるので、続けていくための後継者をつくりたいと思っています。



参加者さんの声

- すごく楽しい。 ●人に会える。
- 顔も名前も知らない人と話ができる。
- 魚釣りが好きなので、これからは自分で魚がさばける。
- レシピを見て思い出しながら、家でつくるのも楽しい。
- 料理を囲んでの懇親の場でいろんな人としゃべるのがプラスになる。
- ここに来ると世界が広がるようだ

取材を
終えて

いろいろなカタチの地域活動があります。同じ思いの仲間と楽しんで活動することが原動力になって活動の輪が広がっていく様子がよく分かりました。ちょっとした声かけから、いろいろな人とのつながりが始まります。そこから自分の居場所が広がっていくのでしょうか。まずは、身近なところから 笑顔で参加できる活動を探していくことが大切だと思いました。自分の居場所を今から少しづつ探していくと良いのではないかでしょうか。



田中武子さん所蔵

シリーズ

時代を切り拓いた鳥取の女性たち①

※今号より鳥取県の発展に貢献してきた偉大な女性先人たちを紹介していきます。

■ 県政史上初の女性県会議員

たなか はなこ
田中 花子さん (1901~1984)

第1弾は鳥取県初の女性議員田中花子さん（1901年～1984年）です。

明治34年（1901年）2月16日、東伯郡倉吉町（倉吉市）の商家、桑田岩蔵、勝子夫妻の三女として生まれた花子さんは、大正7年に気高郡湖山村（鳥取市湖山町）の田中道夫さんと結婚しました。昭和3年、気高郡婦人会総会で「婦人参政権問題」について演説を頼まれた花子さんは、丸髷姿で演説をしました。斬新すぎるテーマと丸髷姿のギャップもあり、大変好評を博しました。その後、昭和15年には、気高郡婦人会の会長にも選ばれています。終戦後、女性に参政権が認められると、気高郡の女性代表として県会議員選挙の候補者に推選され、県内トップの得票で当選しました。

当選後、気高郡内26町村全戸に「県政に関する要望」

アンケートを行い、その回答をもとに女性の声の代弁者として県会での代表質問を行いました。夫の死後、県会議員を辞職しますが、鳥取県連合婦人会の初代会長をはじめ、教育委員や鳥取家庭裁判所の調停委員などを務めながら、法の下に平等となつても、封建思想や家制度の中で育った女性の自覚が付いてきていないことを実感し、その意識改革に精力的に取り組み、生涯を通じて女性の地位向上に尽力しました。そして昭和59年（1984年）、83歳でその生涯を終えられました。

参考文献：鳥取市人物誌きらめく120人・鳥取県人物伝—20世紀を支えたふるさと先人都ー・鳥取の女性史・戦後からの歩み

あなたのまちの男女共同参画

～市町村の取り組み～

米子市

県内各市町村が男女共同参画の実現に向けてどのような取り組みをしているかご紹介します。

第9回は米子市市民人権部男女共同参画推進課 能登克則さんにお話をうかがいました。



■ 取り組み

米子市では、米子市男女共同参画センターの登録団体が中心となって、センター交流祭り『かぶりあ祭』を毎年開催しています。この祭りは、男女共同参画社会の実現に向けてより一層の啓発と推進を図るとともに、センターの登録団体相互の交流と、その活動内容などの幅広い周知を図ることを目的としています。

『かぶりあ祭』開催にあたっては、まずセンター登録団体の中から実行委員を募集して実行委員会を組織します。その実行委員会は3つの専門部会（男女共同参画推進・発表部会、展示部会、広報部会）で構成されており、それぞれの部会が各担当部門の企画から当日の祭りの運営などを行います。

平成28年度の『かぶりあ祭』は、平成29年3月12日に米子市文化ホールで開催しました。今回で13回目となったこの祭りでは、各登録団体による活動発表や食品・物品販売、展示や体験コーナーなど様々な催しが行われ、会場はおよそ450人の来場者で賑わい、例年どおりセンター登録団体の活動発表と交流という目的を果たすことができました。

これからもこの『かぶりあ祭』を、男女共同参画社会が実現していくことを目的に、市民や団体さんと男女共同参画について一緒に考えていける有意義なイベントとしていきたいと思います。

きらり輝く

県内等で活躍している
個人や団体を紹介します。

地元で歴史のある貴重な 家業を継ぐ！



なかやま ちえ
中山 智絵さん(北栄町)

北栄町出身で、男性社会と言われる建築・建設業の中でも希少な家引き・家上げを行う家業を継ぐべく県外の大学から北栄町にUターンして、現場で職人として研鑽を積む中山さんにお話をうかがいました。

◎家業を継ごうと思ったのは、小さい頃からお父さんやおじいさんの働く姿を見て憧れていたからですか。

祖父や父が働く姿を見た記憶はありません。高校は普通科、大学も総合政策学部を選び民間企業に就職するつもりでした。しかし、大学を卒業するときに、何代前に創業したのかわからないくらい歴史があり、希少かつ重要文化財の修復にも使われるなど貴重になった家業を継がないのはもったいないし、継ぐなら今でないと時間が無いと考え、県産業人材育成センターに入校し、卒業後、岩垣組に入社しました。

◎実際に建築・建設の現場で働く女性用トイレや更衣室等女性の働く環境はどうでしょうか。

まだ現場で働く若い女性はほとんどおらず、男性社会という感じがあります。女性用の設備も大きな現場や女性監督のおられるところは整備されていますが、それ以外ではほとんど整備されていません。変な言い方ですが、今はまだ女子がそれなりの覚悟を持って入ってくる社会で、入ってから性差を感じて辞めるのもやむを得ない面があると思います。私は岩垣組に限らず建築・建設現場に入ってくる女子を応援する立場になりたいし、私自身はありませんが、現場に何か不満があるのであれば変えていきたいと思っています。

◎今後は、ワーク・ライフ・バランスなどについても考えることになると思いますが、いかがですか。

まだそこまでは具体的に考えていません。今は早く現場でのノウハウを吸収し、父親の跡を継げるようになりたいです。

小さな地元企業でこそ 女性活躍 を！



さえき あやこ
佐伯 綾子さん(倉吉市)

8年前に愛知県からUターンし、新卒で地元倉吉の企業、流通(株)に就職、現在、社長室長として活躍しておられる佐伯さんにお話をうかがいました。

◎昨年結婚されたばかりのようですが、会社としては、佐伯さんに女性管理職のロールモデルを期待されているのではありませんか。

新卒で初級管理職にしていただき、さまざまなお人(キーマン)に会い、また、たくさん勉強の機会をもらい、とても感謝しています。会社としては、私が女性だから云々ではなく適材適所で配置していると思いますが、結果として、新卒のロールモデルになっているのかなと感じることはあります。ワーク・ライフ・バランスとよく言われますが、自分としては、仕事とプライベートの半分半分ではなく、その時々に応じ、重心を大切にしながら、今後、出産、育児等のステップを踏みたいと思っています。そして、キャリアを積んで、長く働き続けるロールモデルになりたいと思っています。

佐伯さんは受験生の時、よりん彩のサロンでよく勉強されていたそうです。よりん彩も開設から16年。よりん彩から旅立つて、また倉吉に戻って活躍されている女性がいました。

◎地元企業の流通さんに就職されてどうですか。

教育大に進学し、教員免許も取りましたが、1度は教員以外の世界を経験してみたかったのと、地元で働きたいという希望があり、合同説明会で江原社長の話に興味を引かれ入社を決めました。採用後3年間は、バス旅行の企画・運営や会社の事業全般の営業をしました。バス旅行の企画をしていた時には地域の人から直接感謝されてやりがいを感じました。その後、社長室で、広報、採用、社長トップダウンの業務等をしています。

◎とっとり就活サポーターもされていますが、これからUターン就職したい女性にアドバイスをお願いします。

知名度の高い大きな会社だけでなく、広くいろんな職種の会社を訪問してみて欲しいと思います。地元にもおもしろい会社がたくさんあります。福利・厚生が整備されている会社も素敵ですが、小さな会社も、女性をこれから投資に必要な人材と考え福利・厚生を変えてくれるかもしれません。また、能力次第いろいろな場所でさまざまな経験を積ませてもらいます。今、進学校の皆さんに進学する前に地元企業で働くことについて話をする授業をさせてもらっていて、よくそんな話をさせていただいています。

会社訪問するときは、やりがいのある仕事ができそうか、会社の雰囲気が楽しそうか、といったことも含めていろいろなことに着目してください。

男女共同参画に関する苦情は…

あれ?おかしいなあ…
と思ったら

推進員制度をご利用ください!

男女共同参画推進員とは

男女共同参画条例に基づき男女共同参画に係る苦情や不服、意見を適切に処理するために設置された第三者機関です。公平、中立の立場で審査します。

推進員の方々を紹介します！

次の4人が男女共同参画推進員です。男女それぞれ2名ずつです。

- 一盛 真さん（大学教授）
いちもり まこと
- 坂本 浩幸さん（公募）
さかもと ひろゆき
- 谷口麻有子さん（弁護士）
たにくち ま ゆ こ
- 谷本 恵美さん（公募）
たにもと めぐみ



今までどのような申し出がありましたか？

- 災害時に設置される避難所に女性スタッフを適正に配置して女性の人権に配慮していただきたい。県から市町村への働きかけをお願いしたい。
- 有給休暇や育児・介護休暇などの制度は整備されても、長時間労働やサービス残業が常態化して、出産・育児や介護をしながら働き続けることは困難な職場がある。県は男女共同参画やワークライフ・バランスが実際の労働現場で進展するよう取り組んでほしい。
- 鳥取県において、離婚後の親子の面会交流を支援する制度を創設してほしい。

苦情の申出はどのようにしたらよいでですか？その後の対応は？

- よりん彩に申出書用紙がありますので、窓口に相談してください。
- 推進員は、申出者のお話をしっかりと伺い、県の担当課に対して調査を行います。男女共同参画推進の観点から申出内容を検討し、必要があるときは、是正・改善の措置を講ずるよう県に勧告し、または意見を公表します。

※推進員への苦情申出は、個人のものであっても、それがきっかけで県の制度が改善されれば、県民全体への効果が生まれます。推進員制度は、鳥取県の男女共同参画社会を実現していく上で重要な意味を持つ制度です。

※申出はファクシミリやEメールでもできます。

申出・問合せ先

鳥取県男女共同参画センター“よりん彩”
〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5
(電話) 0858-23-3901
(ファクシミリ) 0858-23-3989
(Eメール) yorinsai-moushise@pref.tottori.lg.jp



自分の一歩を決め、踏み出すために

当相談室に寄せられる悩みや訴えは様々ですが、例えば『男として』『夫として』居場所がない』『周りに理解してもらえない』といった孤立感や無力感が語られたり、また、『夫婦や家族と安心して一緒に暮らせない、うまくいかない』『職場の人間関係に困っている』といった悩みなど語られます。

一人ひとり考え方や価値観は違つて当然です。だからこそ「話す」「対話」は、互いの違いを認め理解し合うために不可欠です。もちろん“怒り”的気持ちも互いを理解し合うためには適切に扱い、表現することが大切です。しかし、その対話を成り立たせにくくしているのが、「男だったら・女だったら〇〇だろう」「夫婦だったらわかつて当然、言わなくともわかるだろう」など、「〇〇だったら〇〇して当たり前」といった固定的な役割意識や、「(相手は)きっと〇〇と思っているはず」といった決めつけ、「どう伝えていいのかわからない」、あるいはネット上でのやりとりに偏ってしまうなど伝え方や手段の問題があるようです。特に最近は「嫌だ」「腹が立つ」といった気持ちや相手と違う意見を持った時、その気持ちや思いを言葉で伝え話し合う

ことが十分にないまま諦めてしまったり、結論を急ぐ傾向も感じられます。

「相談室」を利用し、安心して「話す」「語る」ことは、ひとりでは気づけなかった本当の自分の気持ちに気づいたり、問題や課題を整理して明らかにする機会となります。

そして「わたし」の今の一歩を見つけだし、ストレスの軽減や自己肯定感の向上にもつながっていくようです。悩むこと・相談することは、次への一歩を踏み出すチャンス！

ぜひ、安心して話せる場としてよりん彩相談室にお電話ください。



●一般相談 :

センター相談室【0858-23-3939】

東部相談室【0857-26-7887】

西部相談室【0859-33-3955】

●オトコの相談 : 0858-23-3955

“情報ライブラリー” おすすめBOOK

2016年度 よりん彩 情報ライブラリーブルーレイDVD貸出しベスト3

昨年度1年間の貸出し利用の多かったDVDを紹介します。

※個人での視聴だけでなく、職場や地域での研修・学習会の上映にたくさんの方が利用されました。

第1位

「新・人権入門」

「ハラスメントの視点から」

(2014年/25分/東映)

(2013年/23分/東映)



第2位

「相手の立場で考える」

「セクシュアル・マイノリティ理解のために」

(2013年/23分/東映)

(2010年/56分/ビデオ工房AKAME)

第3位

「人権入門 日常から考える10のヒント」

(2005年/23分/東映)

「職場の人権」

(2008年/27分/東映)

「いろんな性別」

(2011年/71分/新設Cチーム企画2011)

「それぞれの立場それぞれのきもち」

(2011年/32分/グループ現代)

「パワーハラスメント4つの判断基準」

(2012年/25分/金子雅臣(職場のハラスメント研究所)アスパクリエイト)

※男女共同参画についてビデオ・DVD等を利用して研修をするときは、是非“よりん彩”にご相談ください。



○貸出点数 — 図書10冊、ビデオ・DVD2点 ○貸出期間 — 3週間 ○団体貸出 — 100冊、8週間の貸出ができます。

○よりん彩ホームページや「鳥取県図書館横断検索」で資料がさがせます。

○県立図書館や市町村立図書館に申し込めば、取り寄せができます。

セミナー講座の御案内

- 日 時／8月19日(土) 10:00～12:00
- 場 所／倉吉未来中心 セミナールーム1
- 内 容／「講演」と「ワークショップ」
女性活躍とワークライフバランス
～誰もが活躍できる職場づくり～
師／瀧井 智美(たきいともみ)さん((株)ICB代表)
- 講 師／催／よりん彩

- 日 時／8月19日(土) 10:00～12:00
- 場 所／倉吉交流プラザ 第1研修室
- 内 容／「講演」
地域防災における女性活躍
- 講 師／佐藤 淳子(さとうじゅんこ)さん
(とつり震災支援連絡協議会事務局長)
- 主 催／よりん彩

- 日 時／9月9日(土) 10:00～12:00
- 場 所／上灘公民館
- 内 容／「講演」と「実習」
イザ!という時に役立つ「もしもごはん」と「もしもトイレ」
師／今泉 マユ子(いまいずみまゆこ)さん
(管理栄養士、(株)オフィスRM代表)
- 主 催／よりん彩

- 日 時／9月9日(土) 13:00～15:35
- 場 所／まなびタウンとうはく
- 内 容／「映画上映」「きみはいい子」
- 主 催／琴浦町男女共同参画推進会議

- 日 時／9月9日(土) 13:00～15:30
- 場 所／伯耆あわせの郷 大研修室
- 内 容／「講演」「子どもの権利」ってなんだろう?
～子どもの権利条約から学ぶ～
師／浜田 進士(はまだしんじ)さん(自立援助ホームあらんの家 施設長)
- 主 催／平和グループ「ブラン」

よりん彩の
催し

夏休みふれあい木工教室 (ミニ椅子づくり)

- 日 時／8月11日(金)山の日
1回目 11:00～12:00 2回目 13:00～14:00
- 場 所／よりん彩内 活動交流サロン
- 各回定員10組です。1組で1脚を制作します。
- 材 料 費／1組につき 1,100円
- 講 師／藤本 順正(ふじもとじゅんせい)さん(三朝町在住)

- 日 時／9月10日(日) 13:00～16:00
- 場 所／日野町文化センター
- 内 容／「寸劇」と「講演」と「交流会」(仮)
おまたせしました! 日野町男女共同参画推進条例誕生
- 講演テーマ／老い方上手!～老いも若きも共に語ろう～
- 講 師／上野 千鶴子(うえのちづこ)さん
(社会学者・東京大学名誉教授)
- 企画運営／男女共同参画推進会議ひの

- 日 時／9月16日(土) 10:00～12:00
- 場 所／倉吉未来中心セミナールーム1
- 内 容／「ワークショップ」
社会の中で女性のからだと性はどう扱われているか
- 講 師／原田 薫(はだかおる)さん(ウィメンズセンター大阪代表)
- 企画運営／ママプロデュースとどり

- 日 時／11月11日(土) 午後(予定)
- 場 所／倉吉未来中心 セミナールーム1
- 内 容／講演
夫婦で笑って考える～男の家事・育児が社会を救う!?～
- 講 師／瀬地山 角(せぢまさかく)さん(東京大学・大学院教授)
- 主 催／よりん彩

- 日 時／12月4日(予定)
- 場 所／青翔開智中学校・高等学校
- 内 容／「講演」 LGBTってなんだろう?
- 講 師／ReBit
- 企画運営／虹色らくだ

鳥取県男女共同参画センター よりん彩

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5 倉吉未来中心 1階

電話(代表) 0858-23-3901 フax/fax 0858-23-3989

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/> 電子メール yorinsai@pref.tottori.lg.jp

「よりん彩」は県民皆さんの施設です。お気軽に立ち寄りください。

センター相談室(倉吉:よりん彩内)

電話:0858-23-3939

火曜日～日曜日 午前9時～午後5時(第3木曜日を除く)
土、日、祝日可(月曜日が祝日の場合は翌日が休み)
専門相談(臨床心理士による心の相談・法律相談)
も行っています。各相談室にお問い合わせください。

東部相談室

(県庁第2庁舎1F)

電話:0857-26-7887

西部相談室

(米子コンベンションセンター4F)

電話:0859-33-3955

月曜日～金曜日 午前9時～正午、午後1時～5時
(第3木曜日を除く)

男性相談員が対応する男性一般相談を始めました。(センター相談室)
電話:0858-23-3955 相談日時:毎週土曜日 午後1時30分～5時30分

※広報誌「よりん彩」へのご意見、ご感想などを寄せください。次号は平成29年12月発行予定です。
よりん彩ネット・電子メールの配信をご希望の方はよりん彩メールアドレスへご連絡ください。